

# 令和6年度 第1回新津第一・第二圏域支え合いのしくみづくり会議 まとめ

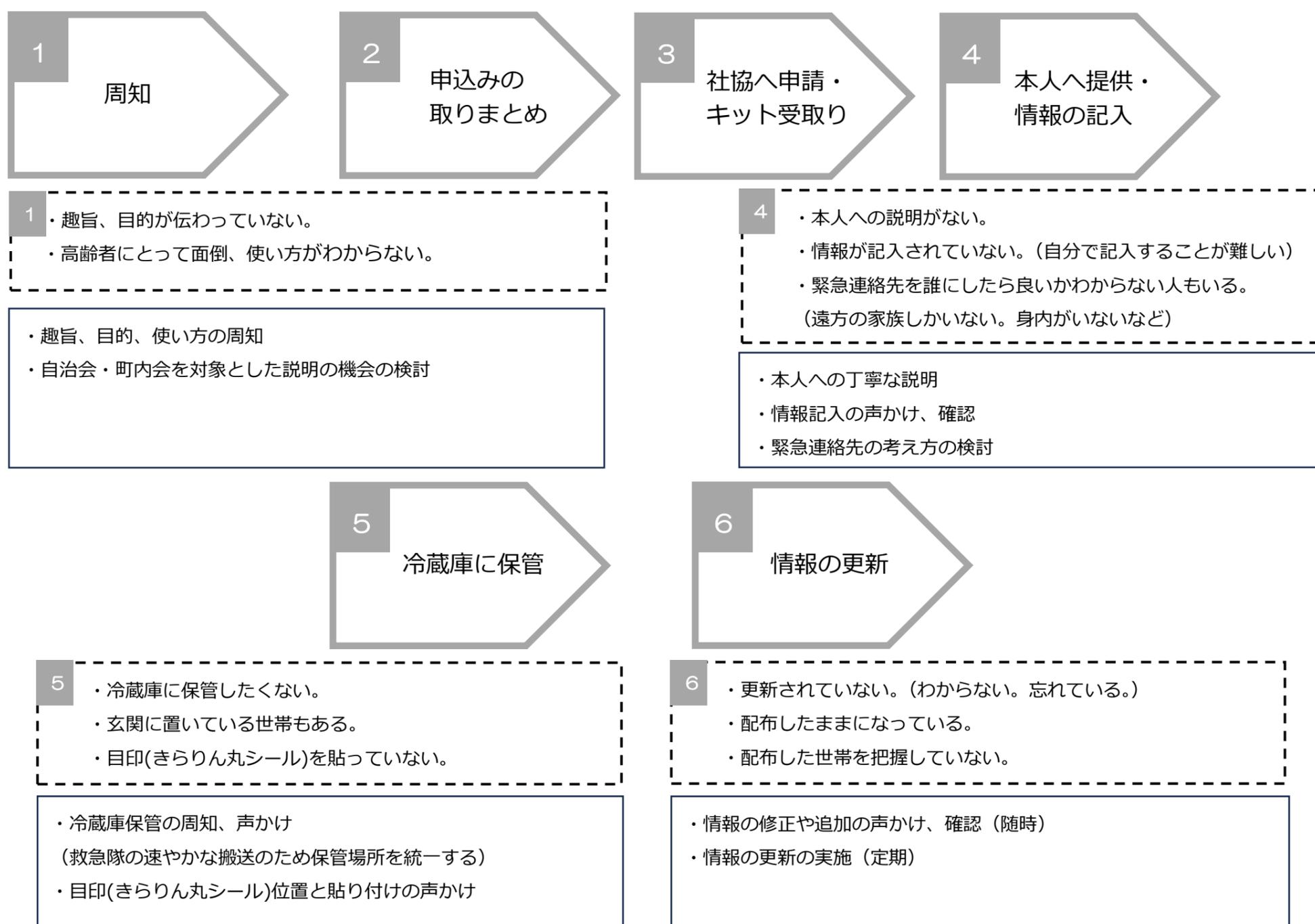
【日 時】 令和6年6月6日(木) 10:00~11:45

【会 場】 新津地域交流センター2階(203・204 研修室)

【出席者】 新津中央コミ協：鈴木健康福祉部員、新津中央地区民協：吉川会長、田家2丁目町内会：小野沢会長、  
 新津西部コミ協：内田副会長、新津西部地区民協：佐藤会長、美幸町長寿会：長谷川幹事、  
 荻川地区民協：中野会長、あおば通町内会：田中会長、  
 秋葉区健康福祉課高齢介護担当：堀内主事、今井係長(行政担当者)、包括新津：阿部管理者、  
 秋葉区社協：横山事務局長補佐(事務局代理・構成員兼務)、小林 SC(1層)、加藤 SC

## 取り組み 1：緊急情報キットの活用方法について（緊急情報キット配布を手段とした「地域の見守り」を考える）

### 緊急情報キットの流れと課題



検討内容	アイデア・意見
<p><b>1 周知</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>趣旨、目的、使い方の周知</li> <li>自治会・町内会を対象とした説明の機会の検討</li> </ul>	<p>◇各地域で説明会を開催</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>緊急情報キットを配布したままにせず、なぜ必要なのかを繰り返し伝えて認識してもらう。(説明済みでも忘れてしまうため)</li> <li>キットの備えが無く緊急連絡先が不明だと病院をたらい回しになり困っていると消防署が強く言っていた。キットがあると病院の受け入れがスムーズにいくので備えの必要性を伝えていくと良い。</li> <li>キットが役に立ったという実例をあげてのPRを行うと必要性が伝わりやすい。</li> <li>自治会・町内会や、老人クラブ、サークル等で説明会を行い、徹底した管理を周知すると良い。(実際に町内会で75歳以上の方を対象にした説明会及び配布を行った)</li> <li>自治会・町内会の回覧板で緊急情報キットについてPRする。</li> <li>健康な人にも自分事として考えてもらうと良い。</li> <li>玄関に目印(きらりん丸シール)を貼ることの周知をする。</li> </ul>

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・全世帯に配布しているので、転入世帯に追加配布している。</li> <li>・配布先情報を把握し確認する必要がある。</li> <li>・年に1回申込み募集期間以外でも希望する方もいるので、自主的に意識することが大切である。</li> </ul>
2	<u>申込みの取りまとめ</u>	
3	<u>社協へ申請・キット受取り</u>	
4	<u>本人へ提供・情報の記入</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本人への丁寧な説明</li> <li>・情報記入の声かけ、確認</li> <li>・緊急連絡先の考え方の検討</li> </ul>	◇ <b>地域の資源を活用</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・おぎかわあったかネットに併せての声かけを行う。</li> </ul> ◇ <b>緊急連絡先</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・遠方に住む親戚のみでなく、近くの知人の連絡先を記入することも検討する。災害時も想定し、緊急連絡先のあり方を考える必要がある。</li> <li>・緊急情報キットの緊急連絡先の記入の声かけをしているが、避難行動要支援者名簿を参考にすると良い。</li> </ul>
5	<u>冷蔵庫に保管</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>・冷蔵庫保管の周知、声かけ (救急隊の速やかな搬送のため保管場所を統一する)</li> <li>・目印(きらりん丸シール)位置と貼り付けの声かけ</li> </ul>	◇ <b>保管場所の徹底</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「冷蔵庫に保管」することで消防署としても統一認識しているので、配布世帯も統一して徹底していく。</li> <li>・キットがある目印であるきらりん丸シールの貼り付け(玄関内側と冷蔵庫表面)の徹底。</li> </ul> ⇒上記徹底した上で、情報用紙を冷蔵庫表面にマグネットで貼るなどの工夫もできるかもしれない。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・冷蔵庫に備えていたことで病院への受け入れがスムーズだった事例あり</li> </ul>
6	<u>情報の更新</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報の修正や追加の声かけ、確認(随時)</li> <li>・情報の更新の実施(定期)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・荻川地区は年1回の更新作業を継続(フォロー)</li> </ul>
<b>その他意見</b>		
<b>継続性の課題</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・役員の担い手不足の為、誰もがわかるルールづくりをする。</li> <li>・役員が交代しても引き継げるしくみが大切である。</li> </ul>		<b>見守り活動について</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年齢を明記した地図を用いて見守り活動をしている。</li> </ul>
<b>タイアップ</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新津中央コミ協健康福祉部、町内会、民生委員と連携</li> <li>・避難行動要支援者名簿を参考にして緊急情報キットを配布した人に緊急連絡先の記入の声かけをしている。</li> </ul>		<b>情報用紙の改良</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報用紙のサイズを大きく、わかりやすいものに改良してはどうか。</li> <li>・情報用紙をカラー用紙にすると良い。</li> </ul>
<b>《今後について》</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>○推進員及び構成員としてできることを行動していく。</li> <li>○推進員と構成員、各地区のコミ協(地区社協)と上記検討内容とアイデア等を共有する場をもち、相談していけると良い。</li> </ul>		

<b>(株)新潟日報サポート 緊急事態通報サービス「にいつりボンコール」について</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・旧新津市と南区の一部のエリアで約15,000世帯へ新聞を届けている。</li> <li>・登録制で主に独居高齢者の見守り(約200世帯)を行っており更新作業もしているので、何か連携できることがあればと思う。</li> <li>・新聞配達をしながら異変(新聞が溜まっているなど)に気づいた場合に登録の緊急連絡先へ連絡をする体制になっている。</li> <li>・徘徊者の発見や、登録されていない世帯でも、自宅玄関の電気がついていないなどの異変があれば対応する。</li> <li>・同じ時間に同じ道順で同じスタッフが毎日配達している。(変化がわかる)</li> <li>・過去に、異変があり(玄関は開くが新聞が溜まっており電気がついたまま)、警察を呼び状況確認した際にトイレで倒れていたことがあった。</li> </ul>	
~「あんしんみまもりネットワーク」「あんしんみまもりコール」について~ <ul style="list-style-type: none"> <li>・2012年に新潟市、新潟市民生委員児童委員協議会連合会(事務局 新潟市社協)、新潟日報販売店会が協定を結んだ「あんしんみまもりネットワーク」が始まった。これは登録制ではなく、新聞配達をしながら異変に気づいた際に連絡(当該地区民協会長または当該地区担当の民生委員、緊急時は警察)夜中の連絡となると必然的に警察への連絡となることが多く、緊急連絡先が不明だったのが課題であった。</li> <li>・2014年、「あんしんみまもりコール」(緊急連絡先の登録制)を始めたが、個人情報管理を伴うので全県の販売店一律に強制できなかった。その後、「にいつりボンコール」NICにいつの独自事業として始め、地域の方々から信頼をいただき展開している。</li> <li>・緊急情報キットの見守り活動と連携できることがあれば協力したいと考えている。</li> </ul>	

**取り組み2：見守りにおける認知症の対応について**

検討内容	アイデア・意見
<ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症の正しい理解を広げる。(R5 作成の認知症チラシを活用)</li> <li>・「認知症」の定義や本人への問いかけ方がわかると良い。</li> <li>・認知症サポーター養成講座の普及</li> <li>・つながりを拒否している方への関わり方について検討</li> <li>・自動車学校と連携した状況把握ができるしくみについて(75歳以上の免許更新で認知機能テストを実施している)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇<b>周知方法</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症の方との接し方がわかるようなポスターを町内会館や公会堂などに掲示して多くの人の目にふれるようにする。</li> <li>・区役所から老人クラブへの書類と共に認知症の正しい理解のチラシ送付が可能である。</li> </ul> </li> <li>◇<b>理解を広げる</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症であることを地域に伝えることが大事である。</li> <li>・家族や隣近所含む地域みんなの認知症についての理解を広げる。⇒家族や地域が本人の趣味や交流を閉ざさない。</li> </ul> </li> <li>◇<b>認知症サポーター養成講座</b> ⇒包括新津や社協に相談可能 <ul style="list-style-type: none"> <li>・老人クラブで講座を開催すると良い。</li> <li>・新津西部地区民協が包括新津に依頼し講座を開催した。各民生委員が受講の声かけを行い、13名の地域の一般参加があった。</li> </ul> </li> </ul>
<p>◀<b>包括新津</b>▶</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症は誰もがなりうる病気である。認知症は恥ずかしいことではないということを啓発している。</li> <li>・家族が地域の方に「(認知症の本人の)見守りをお願いします。」と遠慮なく言えるような社会づくりを促していきたい。</li> </ul>	
<p>◀<b>区役所健康福祉課高齢介護担当</b>▶</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症になっても当事者や家族がオープンになれるよう、地域で支え合う社会をめざすため、区だより、FMにいつ等で周知しているが、行き届いた周知に難しさを感じている。</li> <li>・地域の皆さんから色々のご意見をいただくので(ホームページが見られない人はどうしたら良いのか等)あらゆる方法で周知していきたい。</li> </ul>	

**その他**

その他圏域の課題	意見
<ul style="list-style-type: none"> <li>・困った時にどこに相談したら良いかわかるよう情報の一元化がされると良い。地域の情報窓口について検討できると良い。</li> </ul> <p>~~~~~</p> <p>◇包括新津より</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・R5.11月の圏域ケア会議にて、「身寄り無し」をテーマに地域の皆さんに話し合っていたことについての報告。</li> <li>⇒本人の意思確認ができない場合の代理人(家族)がいないので困っていることが共通課題だと明確にわかった。</li> <li>⇒代理人(家族)がいるからといって代弁をそのまま遂行していくことで本当に良いのかという疑問がある。国が言う「個」のとらえ方を根本から考えていかなければならない時代に来たと感じている。</li> <li>⇒身寄りがあってもなくても安心して暮らせる社会のしくみがあることが理想だが現状はそうではない。誰かがやらなければ進まないという現実なのが課題である。</li> <li>⇒身寄りの無い方への対応における連携のあり方について、継続して取り組んでいくので、地域の皆さんと一緒に考えていきたい。</li> </ul>	<p>⇒ 東部地区で作成した相談先一覧の紹介(荻川コミ協も作成検討中)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ご意見いただいていた小野沢構成員と相談する。</li> </ul> <p>~~~~~</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>当圏域だけでは難しい課題であることから 第1層(秋葉区全域)と課題の共有を図る</p> </div>

**今後について**

- ・各地区の状況をみながら構成員と相談した上で、各コミ協・地区社協と課題を共有し、相談できると良い。
- ・中間期に、支え合いのしくみづくり会議を開催し、進捗の確認及び情報交換を行う。